

調査要項

遺跡名	鶴ヶ岡城跡(県遺跡番号 203-044)
所在地	山形県鶴岡市若葉町 26-31
時代・種別	近世・城館跡
起因事業	山形県立庄内中高一貫校(仮称)整備事業
調査依頼者	山形県教育庁教育政策課
調査機関	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
調査指導	山形県観光文化スポーツ部文化財活用課
調査協力	山形県立鶴岡南高等学校 鶴岡市教育委員会
現地調査	令和4年6月1日から8月31日まで
調査面積	300㎡
調査担当者	専門調査研究員 高桑登(現場責任者) 専門調査研究員 植松暁彦
検出遺構	堀 土坑 井戸 溝 柱穴
出土遺物	近世陶磁器 木製品 金属製品



図1 遺跡位置図(1/25,000)

1 調査の概要

今回の調査区は、鶴ヶ岡城二の丸の北に位置する「七ツ蔵」と呼ばれた庄内藩の蔵があった地区にあたります(図1)。この場所に設置される山形県立庄内中高一貫校の整備に伴って、発掘調査を実施しました。

鶴ヶ岡城は中世には大宝寺城と呼ばれ、室町時代初期頃に武藤氏によって築かれたとされています。戦国時代に武藤氏が滅ぶと、庄内地方は上杉氏、その後は最上氏の支配下となります。慶長6年(1601)に大宝寺城は最上義光の隠居城として整備され、慶長8年(1603)には鶴ヶ岡城と名を改められました。元和8年(1622)、最上氏の改易によって酒井氏が入部し、鶴ヶ岡城を居城としました。酒井氏は鶴ヶ岡城の整備を進め、寛永元年(1624)、この地に七ツ蔵が置かれました。

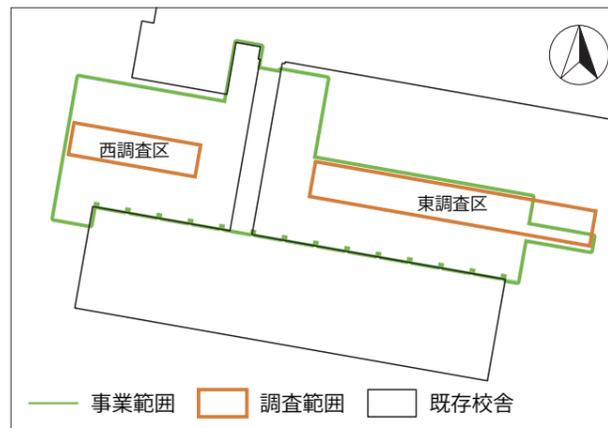


図2 調査区概要図(1/1,000)

七ツ蔵は明治6年(1873)に取り壊され、明治30年(1897)にこの地に庄内中学校が建てられました。明治33年(1900)には七ツ蔵を囲んでいた堀が埋め立てられます。大正9年(1917)に庄内中学校は鶴岡中学校と改称、昭和27年(1952)に鶴岡南高等学校となり、現在に至ります。

発掘調査は、校舎の増築工事が行なわれる

範囲のうち、既存校舎に掘削による影響を与えない範囲を対象に実施しました(図2)。

今回の発掘調査は、1999・2000年に実施された東北公益文科大学等の建設に伴う第1・2次調査に続く第3次調査となります。その他、山形県や鶴岡市によって鶴ヶ岡城跡周辺の調査が継続して行われています。

2 見つかった遺構と遺物

七ツ蔵堀の調査を進める過程で、上層から旧制中学校の基礎が見つかりました(図3)。数10cm～1mほどの掘り込みに根石を詰め込み、その上に礎石が置かれていました。礎石の一部には柱を据えるための方形の加工が見られます。昭和13年(1938)に焼失した鶴岡中学校の再建時の校舎のものと考えられます。大型の礎石が根石として埋め込まれたものもあり、前身の庄内中学校の礎石が転用された可能性もあります。

下層から七ツ蔵の堀と考えられる遺構が見つかりました(図4)。西調査区では、現地表から深さ約3.5mで堀底が確認されています(図5・6)。東調査区では、近代以降に掘られた溝(SD101)が調査区を縦断し、下層の遺構の大半が失われていましたが、SD101溝の壁面で堀の東側の立ち上がりを確認しています(図7)。東西調査区の堀(SD001・SD501)は七ツ蔵を囲む堀の北端部にあたると思われます(図8)。

堀の西側では井戸や溝が見つかりました(図4・5)。SE508井戸は直径1m、深さ2m以上の素掘りで、近世の遺物が出土しています(図9)。SD510溝の底面付近からは15世紀頃の遺物が出土しています(図10・11)。これまでの調査では、鶴ヶ岡城の南側から中世の遺構や遺物は見つかっていましたが、その分布が北側にまで広がっていることが分かりました。

3 まとめ

120年前に埋め立てられ、詳細な位置や規模が不明となっていた七ツ蔵の堀の一部を発掘調査で初めて確認することができました。現在の地形と絵図を比較検討する上で、貴重な資料となります。

また、酒井氏や最上氏以前の大宝寺城に関連する中世の遺跡の広がりが明らかになってきました。

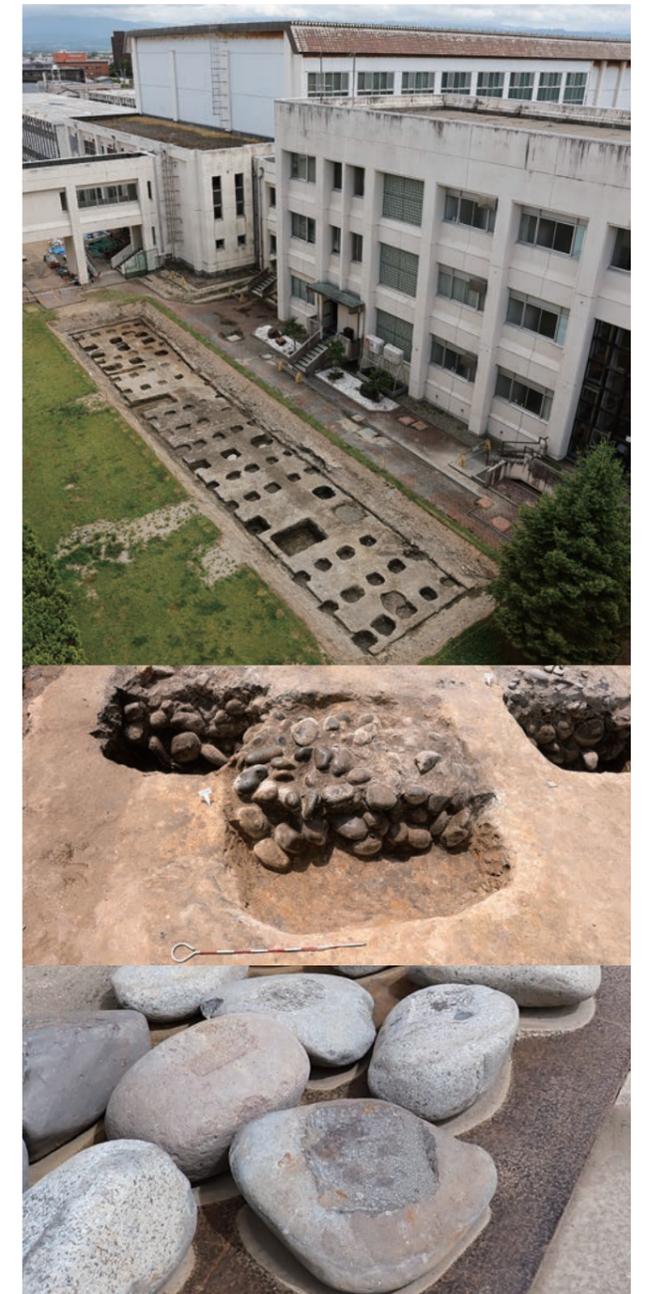


図3 近代の遺構(旧制中学校基礎)

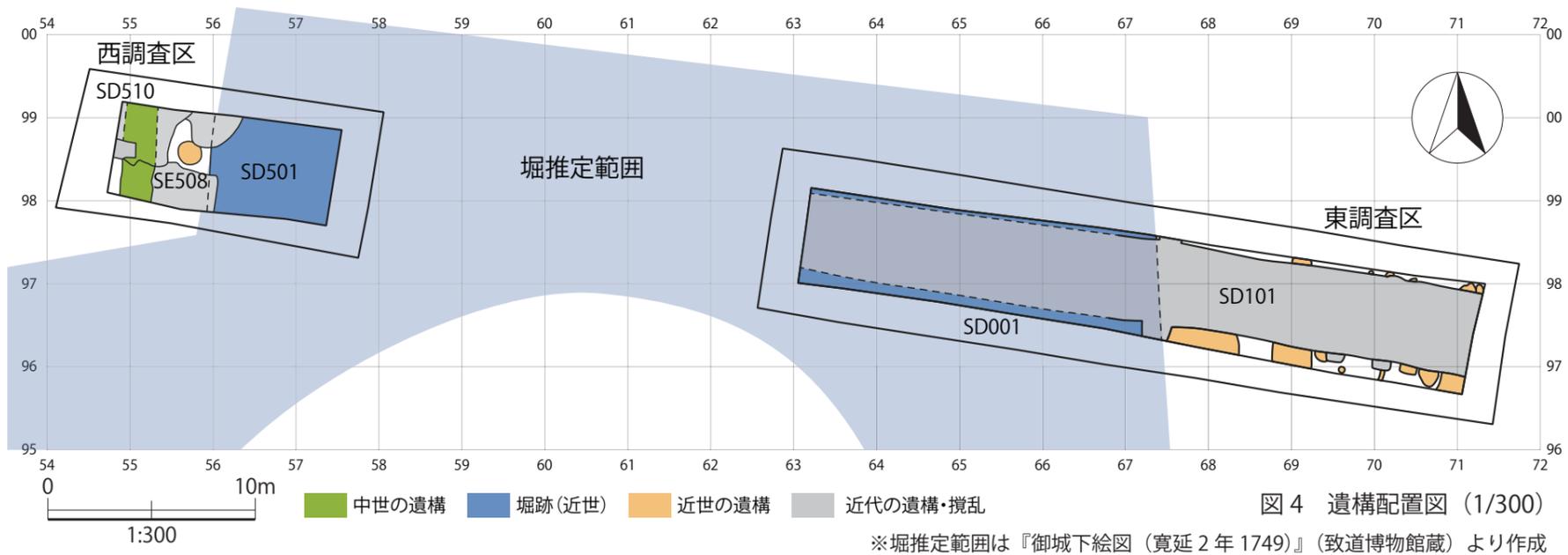


図8 『出羽国庄内鶴岡城絵図』明和7年(1770)(鶴岡市郷土資料館蔵)
 公益財団法人致道博物館2022『鶴ヶ岡城一守り、働き、暮らす拠点—解説書』



図5 SD501 堀と堀西側の遺構



図7 SD001 堀の東側立上り



図9 SE508 井戸



図10 SD510 溝

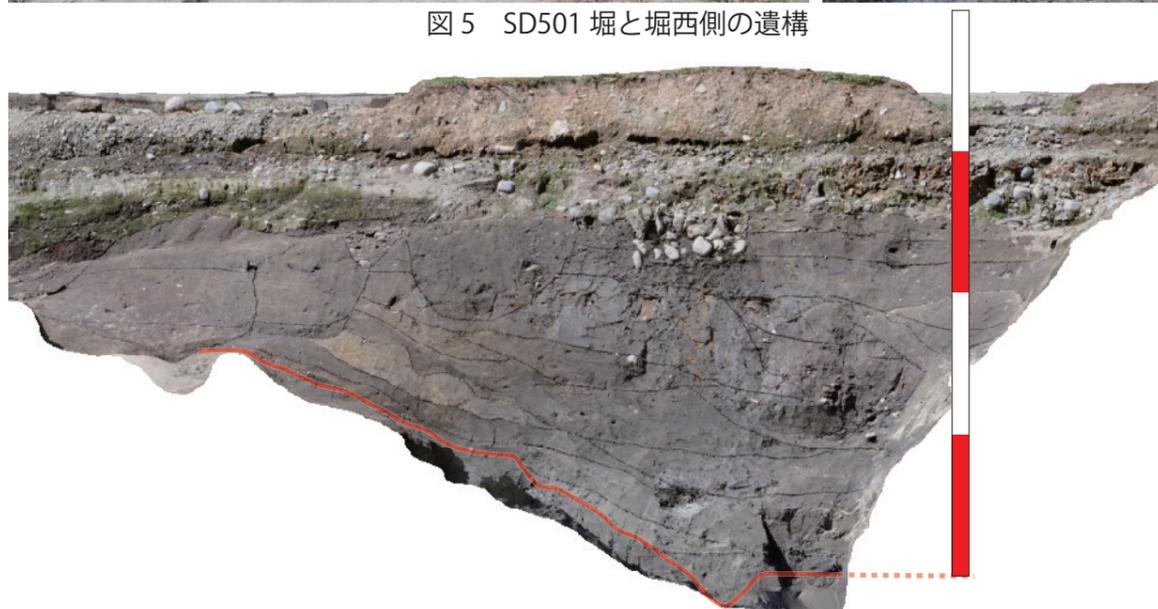


図6 SD501 堀の土層断面 (1/50)



図11 SD510 溝遺物出土状況 (上:古瀬戸瓶子 下:青磁碗)

